

たまだれ
創刊号

玉垂



平成13年元旦

新年のご挨拶



小國神社 宮司 打田 文博

平成十三年の新春にあたり、聖寿の万歳、皇室の弥栄を言寿ぎ奉り、国の隆昌と世界の平和、そして氏子崇敬者各位のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

私儀昨年六月当社宮司を拝命致したばかりですが、皆様方の相変わらぬ篤いご信仰に支えられ、恒例のご神事をはじめ諸事滞りなく執り運ぶことが出来ました。

ご社頭も花菖蒲の時期には近年にない多くの参拝者をお迎え致し、また紅葉の季節にはご社頭賑賑しく、尊きご神威を仰ぐ多くの皆様方より崇敬の赤誠を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。さて、本年は巳年であります。古来より蛇は靈性を具えた動物として古典にも多く記されております通り、神の化身、あるいはお使いとして崇められてまいりました。それは脱皮を繰り返して成長する姿に強い生命力を感じ畏敬の念を抱いたのであります。その意味で本年を新たな成長の年と意義付け、一層の発展を願いたいものです。

当社では、このたび社報「玉垂」を発行致すこととなりました。本紙「玉垂」が氏子崇敬者の皆様と大神様を結ぶ一助となればと考えております。発行に際しましては昨年より編集委員会を設け、名称、内容等を検討し、また、氏子内の識者からご意見を賜わり、季刊紙として出発すること致しました。発刊にあたり表紙の玉垂は、神社本庁総長工藤伊豆様にお願ひ申し上げましたところ、公務ご多忙にもかかわらず、心よくお引き受け下さり、揮毫賜まりましたこと衷心より厚く御礼申し上げます。次第であります。

願れば昨年は、森総理の所謂「神の国発言」でマスコミが騒

ぎ、国会が揺れました。当日私は会合の主催者として責任ある立場にありました関係で、総理のご挨拶のすべてを承知致しております。話は正に正論であり、昨今の青少年犯罪の現状を憂い心の教育、就中感謝と畏敬の念を正しく青少年に教育することの重要性を力説され、その中で宗教的情操教育の大切さをのべられたもので、要点は家庭と教育の問題を訴えたものにほかなりません。また、象徴天皇制につきましても、世界に例のない我国の誇るべき伝統で、国民主権云々とは時限の違う文化論を語ったままで、その後曲解と理解不足によって、世の中が混乱したことは、大変残念なことでした。さらに、このことで国会が揺れ、私利私欲のため政争の具とした一部政治家は言語道断で、これこそが戦後民主主義の歪みと言わねばなりません。

折しも本年は、教育改革に向け本格的な議論が進むようです。「心の教育」が叫ばれて久しいわけですが、教育は国家百年の大計、等閑にするわけにはいきません。

今日最も力を入れるべきは、道徳教育の充実です。中でも先祖様や神様に畏敬と感謝の念を持つこと、人に対し社会に対しいつしみの気持ちをお忘れなことは人間形成の基本ではないでしょうか。その上で、個人の権利と義務のバランスを正しく教えることが肝要です。いずれにしても平成十三年は昨年以上に明るい話題の多い年にしたいものです。

当社も年頭の諸祭事をつつしんでご奉仕申し上げておりますが、氏子崇敬者の皆様方共々大神様の神慮を畏み、広大無辺の恩顧（みたまのふゆ）を戴くべく努めてまいります。

終りにのぞみ、本年がより佳き年でありませうご祈念申し上げます。

平成13年正月(拝殿前)



平成13年正月(拝殿前)

皇紀二六六一年
平成十三年
 西暦二〇〇一年

かのとみ
辛巳

「巳」という文字は、もと精霊を象徴するへびの形にかたどり、神をとどめまつる意を表わすといわれ、「祀」の原字であるともいわれています。また神の化身として、靈性を具えた動物として伝えられています。自然豊かな森、水源域に生息する蛇を、そこから恩恵を受ける人々が、山の神や水の神の化身、使いとして崇め畏敬の念を抱いたのであります。

大鎗矢 絵馬



破魔矢 絵馬

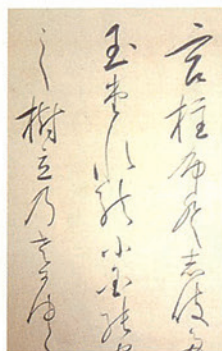


社報『玉垂』について

社報創刊にあたりまして、社内の編集委員会におきまして委員の皆様よりご意見がございましたのは、社報の名称でありました。小國神社の正しい情報の伝達、また広報紙としてどのような名称が相応しいか種々検討を致しましたところ、祭典にて奏上申し上げる祝詞の中に小國神社の枕詞として記されている『玉垂（たまだれ）』に決定させて頂きました。

『玉垂』とは、玉を緒（お）で貫いて垂らし飾りとしたものの意から、「緒（お）」と同音を含む語にかかるといふ枕詞であります。また、屋根から雨のしずくがすだれのように降り落ち

るさまを『玉垂』という語意もあります。小國神社の社頭に掲げられます宮代地区の幟は、文久三年（一八六三年）に新造されましたが、この幟にも『玉垂』と書かれています。さらに、文化七年（一八一〇年）二月十八日、京都冷泉家・栗田士満・本居春庭より和歌を学んだ石川依平が「小國神社にまうててよめる」とした和歌にも「玉たれの」として書かれています。



石川依平筆（神社蔵）



御本殿

古代の森シリーズ①

御本殿（ごほんでん）

小國神社の御祭神は、大己貴命（大國様）です。皆様、ご存じの因幡の白うさぎの神話に登場する心やさしい神様であります。大國様は、国作りの神であり常に世の人々の生活をお護りつづけておられます。

大國様が、お鎮りになつておられる建物が御本殿です。御本殿は、皆様がお参りされる建物（拜殿）の奥に位置し、明治十九年に再建され現在に至ります。御本殿の造りは、出雲大社と同じ大社造で、屋根は、松の皮を幾重にもした松皮葺です。建坪は、十一坪となり高さ約十一メートル余りとなります。

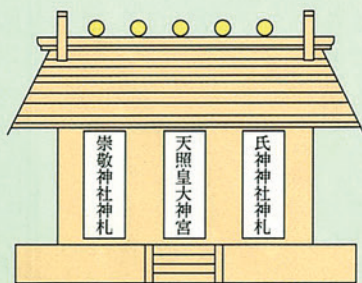
神棚のまつり方

神を敬まい、祖先を尊び、子孫を愛して生業に励むことが一家の平安と繁栄をもたらすもといであることは申すまでもありません。伊勢神宮の神札と氏神さまの神札を神棚におまつりして、日々の感謝の祈りをささげましょう。

①神棚は明るく清らかなところで、南向きか東向きが良いでしょう。

②神札が横に並ばない場合は手前より伊勢神宮の神札、氏神さま、崇敬する神社の神札と重ねておまつりください。

③神棚には毎朝、米・塩・水などをお供えて拝礼します。



神札のまつり方

新嘗祭齋行

秋空のもと去る十一月二十三日の午前十時より新嘗祭が齋行されました。新嘗祭とは、二月の祈年祭で豊穰を祈り、自然・神様の恵みにより収穫を得られたという感謝の気持ち（神恩感謝）を、その新穀を神様にお供えし、さらなる神恩を願う祭典であります。

稲作文化のわが国にとって、この豊穰感謝ということが、社会生活の原点といえるでしょう。常にそうした気持ちで毎年繰り返すことに意義があります。

当日は、社務所前にて修祓、拝殿へ参進。御本殿の御扉を開き、神饌を供した後、宮司が祝詞にて祭典の旨を奉りました。ご参列いただいた百名余の方より玉串を奉り拝礼をしていただきました。拝殿内には氏子一同より奉納されました農産物も案上にお供えされました。

さらに、この新嘗祭に併せ、篤志奉納者への感謝状・記念品の贈呈式、奉納農産物品評会も開催され、即売も行なわれました。

また、十一月二十五日には紅葉祭並甲子講秋季大祭を執行了いたしました。直会の席では、自然薯の料理・竹筒で燗をつけた御神酒等をご賞味いただきました。



新嘗祭当日



紅葉祭



奉納農産物品評会

奉納農産物品評会開催

新嘗祭に併せ、小國神社振興会と遠州中央農業協同組合・氏子地区町内会・部農会のご協力により「奉納農産物品評会」が開催されました。当日は早朝より多くの参拝の方々に四百点におよぶ奉納農産物をご覧になっていただきました。午前十一時の即売開始時には、希望の品を求めらる人々で会場は大変な賑いでありました。

以下に、本年の品評会のご報告を掲載させていただきますとともに厚く御礼を申し上げます。

奉納農産物品評会の表彰

〈協力賞〉

- 第一位 牛 飼部農会
- 第二位 上川 原部農会
- 第三位 中川 上部農会
- 第四位 中川 下部農会
- 第五位 谷 崎部農会

〈小國神社賞〉

- 大根 宮代東 松尾 秀夫
- メロン 米倉 今村 芳信
- 米 円田上 鈴木 紀雄
- 柿 谷 中 朝比奈秀昭
- 白菜 中川上 伊藤 忠敏

〈遠州中央農協賞〉

- 小豆 谷 崎 岡本 兼作
- 米 谷 崎 石田 征夫
- 里 芋 赤 根 鈴木 正利
- 葱 草ヶ谷 建部 恒子
- さつまいも 中川下 柴本 毅

〈小國神社振興会賞〉

- 大豆 宮代西 永田 利平
- 生姜 宮代東 鈴木 博男
- じゃがいも 中川上 石黒 朔郎
- 梨 中川下 野末 貫也
- 米 中川下 柴本みよ子

(敬称略)

篤志奉納の方に感謝状の贈呈

十一月二十三日の新嘗祭に併せ、篤志奉納の方々に感謝状と記念品の贈呈式を執り行いました。この贈呈式は、この一年間に当社に多額の浄財また祭器具等の物品をご奉納賜わりました皆様に、新嘗祭の御神前にて執り行うものです。

ここにご芳名を掲載し改めて厚く御礼を申し上げます。

- 新貝 孝之 森町草ヶ谷
- 小國ヤエ子 森町一宮
- 大場喜久司 森町円田
- 北嶋 恵介 森町円田
- 鈴木 昇 浅羽町太郎助
- 渥美 忠男 森町谷中
- 栗田 操 森町一宮
- 鈴木 孝 森町円田



舞楽「太平楽」(鈴木昇氏奉納)

家康公お手植のみかんの木

贈呈される

- 松尾 要 森町一宮
 - 石橋 寛一 森町一宮
 - 山本 充喜 森町中川
 - 鈴木 照男 森町円田
- (順不同・敬称略)

静岡「葵博」の記念事業として、駿府公園本丸跡に現存する「家康公お手植のみかん」(ほんみかん・静岡県指定天然記念物)を接ぎ木した一年成木が、家康公にゆかりのある当社にも贈呈されました。

贈呈先は徳川家ゆかりの地が十四ヶ所、静岡市内の小学校三十二校、中学校十六校の計六十二ヶ所であり、大切に育成したいと存じます。



家康公お手植のみかんの木

命名

平成十二年九月一日～十一月三十日

- 香取 大輝 東京都
- 柴田 聖人 浜松市
- 山田 実穂 森町
- 稲葉 亮介 浅羽町
- 亀井 明香 浜松市
- 芝崎 早織 袋井市
- 大石 有希 浜松市
- 赤堀 朝香 浜岡町
- 渥美 尚子 菊川町
- 中矢 雅 天竜市
- 藤田 任 浜松市
- 奥宮 歩美 森町
- 鈴木 啓斗 掛川市
- 中村 成宏 磐田市
- 大島 脩 浜北市
- 鈴木 温大 相良町
- 碓 葉奈 引佐町
- 荒木晴太郎 横浜市
- 三沢 莉穂 森町
- 乗松 大翔 袋井市
- 加藤蓮太郎 掛川市
- 加藤慶太郎 掛川市
- 高木 美紅 袋井市
- 大河原主人 舞阪町
- 鷹野 佑真 竜洋町
- 鈴木美瑞紀 浜松市

- 山岸 那緒 長野市
- 池野谷帝輝 天竜市
- 寺田 浩 袋井市
- 白坂 祥子 袋井市
- 鈴木 大也 豊田町
- 大石 侑豊 藤枝市
- 渥美沙夜香 浜松市
- 宮城 文美 小笠町
- 谷口 慧 浜北市
- 桑原 大輔 浜松市
- 安富 巧真 名古屋市
- 藤川 尚也 東京都
- 小柳 柊斗 袋井市
- 松浦 優奈 森町

○当社は、お子様の命名を申し受けております。

会員募集

小國神社振興会

小國神社敬神婦人会

小國神社氏子青年会

右の三会は、大神様を信仰し神社のために奉仕する団体です。主な活動としては、振興会は神賑行事の主催、敬神婦人会は清掃奉仕、氏子青年会は「十二段舞楽」の奉仕・注連縄の奉納など、一年を通して敬神活動を行っております。

氏子地域の皆様であればどなた様でも入会頂けますので、新年度を機に是非ご入会下さい。

まつり歳時記

一月～四月

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前二時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 神明宮参拝 (午前八時半)
- 十一日 手鉞始祭 (午前九時)
- 十四日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前九時)
- 十七日 御弓始祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 どんど焼祭 (午前九時)

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元節祭 (午前十時半)
- 十五日 宗像社・飯手社・白土社例祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 二日 初甲子祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十七日 真田城跡慰霊祭 (午前十時半)
- 十七日 鉞執社例祭 (午後一時半)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 三十日 崇敬会大祭 (午前十一時)

四月 卯月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 さくら祭 (午前十時半)
- 五日 勤学祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 杉祭 (午前八時半)
- 八日 全国一宮等合殿社例祭 (午前九時)
- 十二日 垢離祭 (午前十一時)
- 十二日 舞揃 (午後二時)
- 十四日 献詠祭 (午前八時)
- 十四日 氏子入り報告祭 (午後二時)
- 十四日 二段舞楽奉奏 (午後二時)
- 十五日 二段舞楽奉奏 (午前十一時)
- 十五日 神幸祭 (午後二時)
- 十七日 前日祭 (午前十時)
- 十八日 例祭 (午前十時)

田遊祭 (田遊び神事)

田遊びとは、年の始めにその年の豊作を祈願して田作りから刈り入れまでの稲作過程を模擬的に演じてみせる神事芸能をいいます。そもそも田の神を活気付けるところに原義があつたといわれています。

静岡県は全国でも有数の田遊びの伝承地でありますが、小國神社の田遊びも県指定無形民俗文化財となっています。正月三日午後一時より舞殿にて旧社家の皆様によりご奉仕されます。



田遊び神事「第七段 種蒔」



節分祭

節分祭

節分とは、四季を分ける日であります立春・立夏・立秋・立冬の前日を指しますが、特に立春の前日は二十四節気の起点すなわち年の初めであることから重視され、今日ではこの日だけが節分といわれ行事が執り行われるようになりました。節分の行事には、追儺や豆まきがあります。追儺は弓矢などで鬼を追って悪疫邪気を退けようとするもので「おにやらい」とも呼ばれます。豆まきは炒った大豆を打って鬼を払うもので、室町時代に始まったとされます。

当社の節分祭は、午前十一時に節分祭世話人祈禱祭、午後二時に年男役・年女役が奉仕される節分祭が執り行なわれます。

いちのみや
一宮さくら祭まつり

日本の花といえば、まず第一に桜の花があげられます。日本人にとって特別な花であります。「さくら」の「さ」は、稲田の神霊を指し、「くら」は、神の座を意味しますので、稲作が始まり、共同祈願を行うようになったころから「神霊の依る花」として尊ばれたのではないかと考えられています。

四月一日(日)には、神社指定売店前に設けられます特設会場では、様々な演芸が奉納されます。お茶席も有りますので、春の一日をお揃いでお楽しみ下さい。



さくら

れい
例祭さい

年に一度、御祭神または神社に由緒ある日に行う大祭おまつりのことを、例祭といえます。当社の例祭は四月十八日で、本年は「神幸祭(おわたり)」は四月十五日、国指定の重要無形民俗文化財の「十二段舞楽」は、四月十四日・十五日の奉奏奉仕となります。稚児舞の奉仕者は、三月下旬と四月上旬に舞堂屋(記念館)にて、合宿し当日を迎えます。十五日の舞楽終了後には、神賑行事として福引のあたる餅まきもあります。



十二段舞楽「第二段 色香舞」

謹 賀 新 年

平成13年辛巳年元旦

小國神社

名譽宮司 水野 修次
宮 司 打田 文博
欄 宜 近藤 哲朗
権 欄 宜 梅林 布男
土屋 克彦
鈴木 勝弘
小國 広徳
丸尾 有二
甲田 慎一
村松 芳博
上村 康之
森越 靖幸
山本生沙紀
白岩さよ子
片桐 奈美
山本 真弓
太田 雅子
井上 千晴
大場 ふく
森川 寛一

巫 女

用務員
アシレチック係
森川 寛一

小國神社総代会

責任役員
松下 昭
鈴木三千雄
小國 重幸
多米 八郎
伊部 司郎
小島 三雄

総 代

高木 俊
鈴木 幸雄
大場 道夫
田米 太一
天野 敏
中村 勝一
栗田 操
山下 忠昭
山下 雅彦
鈴木 新一
鈴木 修三
中根喜代次
白幡 富幸
三浦 善一
新貝 直
鈴木 治男
朝比奈喜一
渥美 忠男
加藤 正昭
柴本 馨
飯田 豊次
寺田 勝
村松 元次
山下忠太郎
小國神社振興会会長
岩瀬 静夫
小國神社敬神婦人会会長
小池まさ子
小國神社氏子青年会会長
中川 康夫

小國神社崇敬会ご入会のご案内

本会は、心身ともに健康で明るく豊かな生活を送るため、小國大神を信仰する崇敬者の会で、どなたでも入会できます。

本会の主な会則は、

- 一、年会費は壹萬円以上となります。
- 一、毎朝、ご神前にてご一家の安全と繁栄をご祈願されます。
- 一、小國神社例祭・崇敬会大祭にご案内されます。
- 一、十ヶ年以上継続された方は、記念品を贈呈されます。

本年の厄年

厄年は数え年で、男性は二十五・四十二・六十一才、女性は十九・三十三・三十七才の前後三年となります。「厄除」のご祈祷をお受けになり健やかな日々の生活をお過ごし下さい。

平成13年 厄年表(数え年)

性別	前 厄			本 厄			後 厄		
	昭和17年	昭和16年	昭和15年	昭和16年	昭和15年	昭和15年	昭和14年	昭和13年	昭和12年
男	60才	61才	62才	61才	62才	63才	60才	61才	62才
	41才	42才	43才	42才	43才	44才	39才	40才	41才
	24才	25才	26才	25才	26才	27才	22才	23才	24才
	18才	19才	20才	19才	20才	21才	16才	17才	18才
女	36才	37才	38才	37才	38才	39才	34才	35才	36才
	45才	44才	43才	44才	43才	42才	39才	40才	41才
	32才	33才	34才	33才	34才	35才	30才	31才	32才
	18才	19才	20才	19才	20才	21才	16才	17才	18才

「小國の杜・点描」―紅葉―

境内を流れる宮川沿いが、鮮やかに彩られたのは十一月も終わりの頃でした。紅葉が楽しめる時期は、気温が平均的に八度を下回る頃となります。昨年はおおよそ十一月二十六日～十二月十日頃でした。

十一月二十六日には「もみじまつり」が催され、宮川沿いでは野点、舞殿では琴・尺八の演奏がされ、ご参拝の方々に清々しい一時を過ぎていただきました。遠方より觀賞にこられる方々も多く、九日間に渡り参拝にこられた近畿日本ツーリストの団体を始め、多数の参拝を頂きました。

おすすめスポット

御本殿横の「もみじ橋」より下流を望む景観に人気があります。



小國神社宮川の紅葉

地域ボランティア活動 職場体験

十一月九日、磐田市立第一中学校の二年生「山下晃奈」さん「鈴木綾乃」さんが「職業に学ぶ」としたテーマ学習のなかで、巫女(みこ)さんの体験学習を実施しました。境内の清掃・雅楽器の体験など充実した一日を過ごされました。

紅葉も見頃の十二月二日、静岡県立森高等学校の一年生四十名が地域ボランティア活動として、当社の境内清掃にご奉仕下さいました。参拝の方々に「ご苦労さま。」と声をかけられ懸命に清掃をしておりました。



体験学習「雅楽」

編集後記

社報創刊にあたりまして、関係各位より適切なご意見を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。今後はより充実した編集に努めてまいりますので、皆様方よりのご意見・ご要望をお待ちしております。

表紙写真について

平成十三年一月一日午前一時頃に拝殿前の状況を撮影致しました。寒いなか順番に並んでのお参りでした。



森高等学校生徒「橋の清掃」

平成十三年一月一日
「玉垂」(たまたれ) 創刊号
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七〇二二六
住所 静岡県周智郡森町一宮三五六一一
電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
FAX 〇五三八(八九) 七三六七
印刷 仰デザインオフィス エム・エス・シー